



「教育実践研究の成果」を更新して公開中  
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

岩手大学大学院教育学研究科研究年報  
オンラインISSN 2432-924X

- 中村偉輔・佐々木全・佐藤信 (2025) 特別支援学校の作業学習における補助具の開発にかかる教員の内的プロセス
- 細川純平・田代高章・須川和紀・鈴木久米男 (2025) 高等学校における生徒の社会参画を促す教員の実践力の形成 ―総合的な探究の時間における教員・学校組織・地域の連携― 他13編掲載、教育学研究科研究年報 第9巻

問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600  
E-mail [edujim@iwate-u.ac.jp](mailto:edujim@iwate-u.ac.jp) URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

## 教育実践研究発表会

融合。実践の理論と

学卒 M2 五島佑希菜  
[学卒院生、特別支援教育力開発プログラム]

教職大学院での学びの集大成である教育実践研究発表会を通して、新たな気づきや学びを得るとともに、今後の研究や実践の展望についても整理することができました。今後は、教職大学院での学びを通して得た経験や知見を生かし、より良い授業実践や支援構想へと発展させていきたいと思えます。

現職 M2 高橋 規真  
[現職院生、授業力開発プログラム]

「自律的な問題発見・解決能力を育成する中学校数学の授業開発」をテーマに研究に取り組みました。予想・検討・振り返りを支える教師の意図的・計画的な支援や介入、自己決定の場の保証が、自律的な学びを引き出す上で有効であることが明らかになりました。2年間の学修を通して得た知見を、今後の教育実践に生かしていきます。

## 教職大学院を修了して

現職 M2 西舘 智香子  
[現職院生、学校マネジメント力開発プログラム]

社会の急速な変化に対応するために必要とされる主体性や、多様性を尊重する力を育む教育、岩手の教育課題等について考える機会となりました。他校種の文化や子どもへのまなざし、学卒院生の視点、先生方の深く幅広い専門性に触れ、多くの刺激を受けました。今回の学びを、今後の教育実践に生かしていきたいと思えます。

学卒 M2 太田 瑠美子  
[学卒院生、授業力開発プログラム]

教職大学院での学びは、理論と実践を往還しながら教育を捉える貴重な経験となりました。現職院生と学卒院生が議論を重ねる中で、同じ事象でも見方や課題意識が異なることに気づき、多角的に考える力を養う機会となりました。来年度からは、ここで得た視点や実践力を学校現場での教育実践に生かしていきます。

## 教育学研究科教員メッセージ

融合。実践の理論と



特任教員  
小野寺 哲男

いよいよ令和8年度から「DX of Education [DX, E] 教育実践学×情報学分野高度専門人材養成プログラム」が始まります。これまで培ってきた実践的なフィールド研究を基盤としつつ、数理(M)、データサイエンス(D)、AI(A)科目の新設や既存科目の改変を行ったカリキュラムが整いつつあります。

これは、現在改訂が進められている学習指導要領への対応等を視野に入れて実施するものです。教育課程企画特別部会の論点整理(R7.9.25)では、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手をみんな育てる」とする次期学習指導要領に向けた基本的な考え方を示すとともに、情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現等が示されました。この考え方を具現化する高度な専門性と実践力を有する教員を養成することが本教職大学院に求められております。

その使命を果たせるように今後とも教育行政機関や民間企業等と協働しながら教員養成に取り組んでまいります。

## 教育実践研究・中間発表会

現職 M1 佐藤 錦  
[現職院生、学校マネジメント力開発プログラム]

この1年間は、大学院での学びや研修等で得られた知見を基に研究内容を構成してきました。教育実践研究中間発表会では、先生方や先輩から多くの助言をいただき、研究内容を批判的に見直す貴重な機会となりました。今後も先生方のご指導を受けながら、院生同士でも情報や知見を共有し、研究の質をさらに高めていきます。



## 教職大学院の日々

学卒 M1 原 颯馬  
[学卒院生、授業力開発プログラム]

教職大学院では、M1・M2や現職・学卒といった立場の違いを超え、異なる教科や校種の院生が共に学び合っています。学部段階の学びに比べ、より専門的かつ実践的に学ぶことができることに加え、互いの経験や実践、児童生徒の実態について理解を深める貴重な機会となっています。今後も院生同士で学びを深め、教育者として一層成長していきたいと思えます。